

Yoshitaka Minami BIOGRAPHY

1950 東京都大田区生まれ。小学生の頃より兄、姉の影響でスタンダードナンバーやポップスに親しみ、中学時代にバンドを結成しオリジナルを手懸けた。大学時代はジャズを学び、シンガーソングライターの創作活動に入る。

1973 「はっぴいえんど」を解散したばかりの松本隆をプロデューサーに迎え『摩天楼のヒロイン』でデビュー
 1974 「キャラメル・ママ」、「ムーンライダーズ」のメンバーとの交流が始まる。
 1976 全曲、作詞・作曲のアルバム『忘れられた夏』をリリース。
 1978 「SOUTH OF THE BORDER」を坂本龍一、来生えつこ、吉田保らとレコーディング。
 1979 「SPEAK LOW」をリリース。郷ひろみが「モンローウォーク」をカバーし、ヒット。



『摩天楼のヒロイン』(1973)
トリオレコード
CDSOL-1816

1980 「Y.M.O」のメンバーとのアルバム『MONTAGE』を制作。
 1981 映画「スローなプギにしてくれ」のサントラを担当し、同曲がヒット。
 『SILK SCREEN』をリリース。
 1982 ニューヨーク録音の「SEVENTH AVENUE SOUTH」をリリース。
 1983 「DAY DREAM」をリリース。同時にサントラ等CM音楽も手懸けた。
 1984 「冒険王」を発表。「スタンダード・ナンバー」が薬師丸ひろ子が「メインテーマ」としてカバーしヒット。
 1985 セルフプロデューサーとして、「882STUDIO」を制作。
 1986 映画をモチーフにした「LAST PICTURE SHOW」を発表。
 1987 「VINTAGE」をリリース。
 1988 「DAILY NEWS」をリリース。東映映画『疵』の主題歌「PARADISO」を書き下ろす。
 1989 インドを旅し、カルチャーショックを受ける。「東京物語」をリリース。



『SPEAK LOW』(1979)
Sony Records
ソニー・ミュージックレーベルズ
MHCL 30061

1990 「大航海図鑑」をリリース。
 1991 「どこか遠くへ」をリリース。テレビ番組でソ連(当時)のナホトカからトルコのイスタンブールまで、音楽の源流を求め、四駆でユーラシア大陸を横断、走破。
 1992 「NEW STANDARD」をリリース。
 1993 取材でブラジルに赴き、ジョアン・ジルベルトにインタビュー。
 バラードベスト盤『夏の終わりに僕は君を失う』をリリース。
 1995 電気グルーヴのアルバムにヴォーカルで参加。
 1996 「Another Tomorrow」をリリース。全編ブラジル音楽による『Festa de Verão』をリリース。茅ヶ崎にて、サンバパーティー「太陽のメロディ」を開催。
 1997 カリブ海の旅へ。ゲストに細野晴臣を迎え、松本隆、鈴木茂らとアルバム『Sketch Of Life』をリリース。第2回「太陽のメロディ」を開催。
 マキシシングル「冬のアメリカンチェリー」(作詞・かせきさいだぁ)をリリース。
 1998 鈴木茂率いるバンド「ハックルバック」と「PURPLE IN PINK」のアルバム発売に先駆けてライブツアーを行う。



『MONTAGE』(1980)
Sony Records
ソニー・ミュージックレーベルズ
MHCL 30062



『SILKSCREEN』(1981)
Sony Records
ソニー・ミュージックレーベルズ
MHCL 30063

2000 杉山清貴とライブ(2000Vocal Session)を展開。
 2001 初のカヴァーアルバム『NUDE VOICE』発売。
 2002 ボサノバ、ラテンテイストのカヴァー
 2003 茅ヶ崎ヘッドランドビーチにてフ
 2004 「遙かなディスタンス」を含むマキシシングルをリリース。
 21枚目のオリジナルアルバム『ROMANTICO』リリース。
 2005 六本木STB139他、大阪、名古屋ブルーノートなどで約60本のライブ。
 2006 Rio Novoとのコラボレーション『Bossa Alegre』をリリース。
 リオデジャネイロでレコーディングの「ボクのこころ〜メウ・コラソン」をリリース。
 ベッカー・竹田元と「TAKIBI隊」を結成し「CAMP」をiTunesで配信。



『Seventh Avenue South』(1982)
Sony Records
ソニー・ミュージックレーベルズ
MHCL 30064



『冒険王』(1984)
Sony Records
ソニー・ミュージックレーベルズ
MHCL 30008

2010 洋楽カヴァー「あの夏... (In Summer)」をリリース。
 2011 新曲「サクラの花よ」を配信。全曲書き下ろしの「SMILE & YES」をリリース。
 2012 ライブ収録アルバム『All My Best』をリリース。
 2013 デビュー40周年。「スケッチブック」、ライブアルバム第2弾『My Back Pages〜All My Best II』、40周年記念盤「オールタイムベスト〜CUARENTA〜」、これまでアーティストに提供した150作品から20曲をチョイスした作品集「Alma (魂)」をリリース。40周年記念ライブを東京、名古屋、大阪の(ビルボードライブ)で開催。
 2015 ライブ「42年目の摩天楼のヒロイン」をピアノの竹田元と2人で各地にて開催。
 2016 ラジオFM COCOLO「NIGHT AND DAY」の「レディオソロイズム」が好評を呼び、ライブ「Soloism」を行う。「ラジオな曲たち〜NIGHT AND DAY」をリリース。
 2017 杉山清貴とアルバム『Nostalgia』を制作。書き下ろし3曲とカヴァー曲を含め全10曲収録。ユニット「Half & Half」名義で、各地でコンサート開催。
 2018 デビュー45周年。オリジナルアルバム『Dear My Generation』をリリース。
 ラジオ番組「NIGHT AND DAY」が10年目。第2弾「ラジオな曲たちII」をリリース。「I will 69 you」と題し、南佳孝フェスを(東京EXHATER)で開催。



『ROMANTICO』(2004)
ビクターエンタテインメント
VICL-61441

2020 杉山清貴との共作アルバムの第2弾「愛を歌おう」発売。ライブ配信収録を(鎌倉プリンスホテル)バンケットホール七里ヶ浜でおこなう。
 2021 (鎌倉プリンスホテル)にて収録した「愛を歌おう」のライブをDVD & CD化、NHK「ラジオ深夜便」深夜便のうたで放送の「海へ行こうか」を含めた3枚組で発売。南佳孝フェスの大阪公演開催。
 2022 「南佳孝 松本隆を歌う Simple Song〜夏の終わりに」と題し、二人の作品のみを歌うコンサートが松本隆をゲストに大阪(心斎橋SPACE14)、東京(大手町三井ホール)で開催。東京(有楽町I'M A SHOW)にて追加公演(副題「いつもどこかに冒険王」)も行われた。
 2023 デビュー50周年。(大手町三井ホール)でのライブ「南佳孝 松本隆を歌う〜Simple Song 夏の終わりに」を3月に発売。
 「南佳孝フェス50th Anniversary コンサート」を開催中。

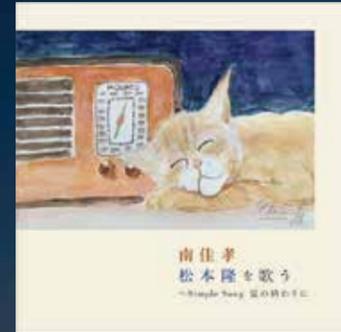


『Dear My Generation』(2018)
キャピタルヴィレッジ
CVOV-10049

松本隆の世界観を南佳孝が演奏と歌声で表現した特別な公演がライブCDに!

南佳孝 松本隆を歌う 〜Simple Song 夏の終わりに

LIVE at 大手町三井ホール
Sept.10,2022



作詞：松本隆 作曲：南佳孝 全24曲

好評発売中!

CVOV-10077 定価 4,000円+税
 発売元：株式会社 キャピタルヴィレッジ
 販売元：株式会社 徳間ジャパン
 コミュニケーションズ

【お問合せ】キャピタルヴィレッジ

Tel. 03-3478-9999
 (平日12:00-17:00 土日祝休み)

背表紙 141mm



デジタルにはない『人のぬくもり』を――

デジタル化が進めば進むほど、むしろ際立つアナログの魅力。レコードもその一つです。東洋化成では、熟練した職人だからこそ出来るハイレベルな技術で、デジタルにはない「人のぬくもり」がこもった音を追求しています。


東洋化成株式会社
<https://toyokasei.co.jp>



YOSHITAKA MINAMI
50th
 ANNIVERSARY
 2023



Yoshitaka Minami 50th Anniversary Live 2023

南佳孝フェス

2023/9/24 sun
 東京国際フォーラム ホールC

子どもの頃から歌うことが好きで、プロのシンガーソングライターとして1973年にデビューし、今年2023年に50周年を迎えた南佳孝。50年という月日は、18,250日にもなるが、本人はあっさりと「知らずのうちに過ぎてきた」という。しかし18,250日の日々、労苦の跡をとどめず黙々と曲をつくり、風のように全国のステージで歌い、輝き続けていることは、ファンの皆さんがよく知っていること。今日はたくさんゲストに囲まれた南佳孝をみんなで祝い、みんなのアニバーサリーにしよう。

member

岡沢 章 (B) / 住友紀人 (Key & Sax) /
 松本圭司 (Pf) / 島村英二 (Dr)

guest

大田裕美 / 尾崎亜美 / 杉山清貴 /
 松本 隆 (トークゲスト) / 小原 礼 / 鈴木 茂

〈主催〉TOKYO FM
 〈企画制作〉キャピタルヴィレッジ
 〈後援〉FM COCOLO